



令和6年3月8日  
総合政策局環境政策課

「グリーンインフラ創出促進事業」公募の選定結果について

- 民間企業が有する新たなグリーンインフラ技術の実証を行う「グリーンインフラ創出促進事業」の公募を行い、審査の結果、4事業を選定しました。
- 今後、当該技術等を用いて、実証フィールドでの検証を行い、その実用可能性などを取りまとめる予定です。

応募者	応募名称、開発技術の概要
<p><b>多機能舗装技術の研究開発に関する共同体</b> (株式会社大林組、大林道路株式会社)</p>	<p><b>応募名称：雨水流出抑制と路面温度上昇抑制効果を有する舗装技術</b> 透水性・保水性・遮熱舗装等は単一課題に対し確実な機能を発揮するが、豪雨と猛暑のような複数課題に対してその機能を十分に発揮するとはいえない。このため、雨水流出抑制効果と路面温度上昇抑制効果をもつ舗装を試験施工し、その効果を検証する。 [実証フィールド：兵庫県神戸市内]</p>  <p>舗装断面構成(イメージ)</p>
<p><b>株式会社サムシング</b></p>	<p><b>応募名称：縦型雨水浸透施設二重管工法</b> 近年、都市型洪水が多発傾向にあり、縦型雨水浸透施設「JSドレーン工法」が実用化されてきたが、ドレーンに流入した土砂を十分に除去できず、維持管理の観点で課題がある。維持管理・更新の容易化、施工工期短縮を目的に、ドレーンの外側に新たにドレーン管を設置して二重管とし、その雨水浸透能力や維持管理性能向上について検証する。 [実証フィールド：神奈川県川崎市内]</p>  <p>従来技術(左図)、新技術(右図)</p>
<p><b>東急建設株式会社</b></p>	<p><b>応募名称：里地里山遊閑地の湿地化による雨水貯留機能と生物多様性に関する評価</b> 現在、グリーンインフラ施設において自然環境が有する多様な機能を活用することが注目されている。このため、里山の遊閑地を人為的に整備した湿地環境において、流量調査(流速や水位の計測)による貯留機能の定量的な効果、及び生物調査(自動撮影カメラや環境DNA分析等)による生物多様性への影響の検証を行う。 [実証フィールド：神奈川県横浜市]</p>  <p>調査場所の概要</p>
<p><b>グリーン産業株式会社</b></p>	<p><b>応募名称：リサイクル資材を用いた待受型自然侵入促進工による緑化【やまみどり工法】</b> 法面緑化は、切盛土に伴い発生する法面の安定確保に活用されているが、外来種や外国産の在来草本を用いることが主流であり、地域生態系に及ぼす影響が懸念されている。このため、きのこの廃菌床等のリサイクル資材を活用し、新たな自然侵入促進工の開発を行う。 [実証フィールド：新潟県阿賀野市内]</p>  <p>実証試験パターン一例</p>

〈問い合わせ先〉

国土交通省総合政策局環境政策課 担当：一丸、瓜生

TEL：03-5253-8111(内線24331、24332)、03-5253-8262(直通)